# 高齢者による地域活性化促進事業

（　新　規　）
27年度要求額 16百万円

第2回認知症高齢者等にやさしい地域づくりに係る関係省庁連絡会議
平成26年9月25日
資料 1-9

## 高齢社会の現状

■ 進む高齢化と地域で孤立化する高齢者

- 高齢化の推移（総人口に占める65歳以上の人口）
  6.3%(S40) → 25.1%(H25) → 39.9%(H72推計)
- 一人暮らし高齢者の動向(65歳以上)
  男性　4.3%(S55) → 11.1%(H22) → 16.3%(H47推計)
  女性　11.2%(S55) → 20.3%(H22) → 23.4%(H47推計)
- 近所づきあいの程度（60歳以上）
  親しくつきあっている　64.4%(S63) → 51.0%(H22)

□ 進む高齢者の社会参加と急がれる受入体制の整備

- グループ活動に参加している高齢者（60歳以上）
  42.3%(H5) → 61.0%(H25)
- 放送大学在学者の高齢者割合（60歳以上）
  12.0%(H15) → 22.1%(H25)
- 高齢者が生涯学習を行っていない理由（60～69歳）
  きっかけがつかめない 20.9%　一緒に学習や活動をする仲間がいない 13.6%
  必要な情報がなかなか入手できない 9.2%

男女とも平均寿命80歳越え

（平成26年度版　高齢社会白書）

## 事業の必要性

○ 今後生じてくる様々な地域の課題を解決していくためには、多くの高齢者がより一層元気に、様々な場面で活躍できる社会であることが重要。

○ 高齢化率が高まる我が国において、生涯現役社会を生きる高齢者が地域に参画し、豊かな知識・技術・経験を十分に生かしながら、自主的かつ継続的に活躍できる環境の整備が必要。

○ 過去3年に渡り実施してきた施策の成果から浮かび上がった意見として、きっかけがつかめず活動に参加できていない高齢者と運営方法にジレンマを感じている団体とをサポートするための成功事例とチャレンジ事例の提供及び、関係者間のマッチングの機会の創出が求められており、そのためのフォーラムの開催が必要。

## フォーラムの開催

地方自治体担当者や高齢者の学習・社会参加に関わる団体関係者に加え、大学、企業等の参画によるフォーラムを開催し、放課後子供教室等の地域による子育て支援に関する情報共有、アクティブ・シニアのネットワークづくり、図書館など社会教育施設における起業支援等、先導的な取組事例を紹介するとともに、パネルディスカッションやグループ討議等を実施。

→ ノウハウの波及、関係者間のネットワークづくり

## 事例集の作成・配付等

高齢者の地域社会への参画の状況等を把握するための調査研究を行い、また、フォーラムにおいて蓄積されたノウハウや高齢者の地域参画に関する先導的モデル等をまとめた事例集等を作成し、高齢者教育に積極的に取り組む地方自治体担当者、NPO運営者、大学の研究者、企業の担当者等を対象として、広く情報提供。

→ 情報提供と取組の誘発

# 高齢者の地域づくりへの主体的な参画の促進による地域の活性化

【「日本再興戦略」改訂2014（平成26年6月24日閣議決定）】

誰もが生涯現役で活躍できる社会を構築するため、（略）高齢者が身近な地域や人材を必要としている他の地域での就労、ボランティアなどの社会参加活動への参加を積極的にしやすい環境を整備する。

【経済財政運営と改革の基本方針2014（平成26年6月24日閣議決定）】

高齢者の就労支援やボランティア活動の推進等により、高齢者が地域社会に参画しやすい場づくりなど生涯現役社会に向けた環境整備を推進する。

# 脳科学研究戦略推進プログラム・
# 脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト

| | |
|---|---|
| 平成２７年度要求・要望額 | ：6,367百万円 |
| うち優先課題推進枠要望額 | ：1,280百万円 |
| （平成２６年度予算額 | ：5,483百万円） |

## 概　要

高齢化、多様化、複雑化が進む現代社会が直面する様々な課題の克服に向けて、脳科学に対する社会からの期待が高まっている。このような状況の中、脳科学委員会における議論を踏まえ、**『社会に貢献する脳科学』**の実現を目指し、脳科学研究を戦略的に推進する。
また、欧米が相次いで脳科学研究の大型プロジェクトを立ち上げる中、我が国として**「脳機能ネットワークの全容解明」**という目標を掲げ、霊長類の高次脳機能を担う神経回路の全容をニューロンレベルで解明し、精神・神経疾患の克服や情報処理技術の高度化等につなげるための基盤を構築する。

### 脳　科　学　委　員　会

（主査：金澤 一郎 日本学術会議会長（当時））

◆平成19年10月、文部科学大臣から科学技術・学術審議会に対し、「長期的展望に立つ脳科学研究の基本的構想及び推進方策について」諮問

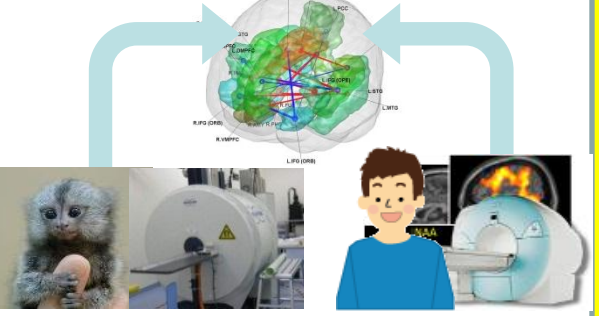
◆これを受け、同審議会の下に「脳科学委員会」を設置、平成21年6月23日に第1次の答申

◆本答申では、重点的に推進すべき研究領域等を設定し、社会への明確な応用を見据えて対応が急務とされる課題について、戦略的に研究を推進することを提言

◆平成25年7月、欧米の動向を踏まえ、我が国の強みを生かした革新的技術による脳科学研究を戦略的に推進するため、「革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明」を基本的な構想として調査検討を実施し、報告書を取りまとめ

**【平成27年度の取組】**

**平成26年度に構築した研究体制により本格的にプロジェクトを推進**



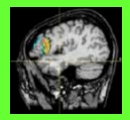
霊長類の神経回路の網羅的な解析に加え、ヒトと霊長類において共通の手法で脳の活動を計測することを可能とする技術の開発を推進

BMI技術を用いた自立支援、精神・神経疾患等の克服に向けた研究開発 （BMI技術）

心身の健康を維持する脳の分子基盤と環境因子等の研究 （課題F）

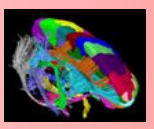
霊長類モデル動物の創出・普及体制の整備 （霊長類モデル）

**脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト（拡充）**

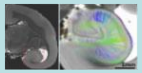


ヒトの精神・神経疾患の克服に向けた研究開発
（臨床研究グループ）

霊長類脳構造・活動・機能マップ作成 （中核拠点）



革新的な解析技術の開発 （中核拠点／技術開発個別課題）


顕微鏡的MRIの高度化

回路再構成技術

透明化技術

多光子顕微鏡

『社会に貢献する脳科学』の実現へ

- 脳の情報処理理論の確立と応用
- ヒトの高次脳機能とその障害としての精神神経疾患の理解と治療戦略

脳科学研究を支える集約的・体系的な情報基盤の構築（課題G）